

甲南大学 プレミア・プロジェクト 文芸イベント

今、この世界で、物語を語るこの意味

ドキュメンタリー映画の上映と

3人の作家のトークによる二本立て！！

9月17日よりWebにて申込み受付開始！

甲南大学 文芸

検索

なんだか窮屈で閉塞感が漂う時代です。SNSに忙しく、本や文学を読む時間も無くなってきてはいませんか？

そして、世界中で他人のことをわがことのように考える寛容さが欠けてきているのを感じます。そんな「今」、文学にできることは何なのか、文学が描こうとしているものは何なのか？イスラエルの作家エトガル・ケレットについての映画と、日本の3人の作家のシンポジウムを通して、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。ちょっとでもピンときた方はぜひ参加登録をして甲南大学までお越しください。きっと何か新しいものが見えるきっかけになるはずです。

第1部：映画上映会 『エトガル・ケレットーホントの話』

(オランダ映画 ステファン・カース監督 2017年) ※日本語字幕付き

奇抜な超短編小説で世界中を魅了するイスラエルの作家エトガル・ケレット。彼の人生と創作を描いたハイブリッド・ドキュメンタリー映画が生まれました。日本初公開。この機会を逃したらしばらく日本では見られません！

・エトガル・ケレット (1967-)

イスラエルの短編小説作家・映画監督。『ジェリーフィッシュ』（妻のシーラ・ゲフェンと共同監督）でカンヌ国際映画祭で新人賞カメラ・ドール受賞。邦訳は『突然ノックの音が』『あの素晴らしき七年』。

第2部：シンポジウム「今、この世界で、物語を語るこの意味」

温又柔 × 福永信 × 木村友祐

司会：秋元孝文（甲南大学文学部英語英米文学科教授）

日本の文学シーンの最前線で物語を紡ぐ3人の作家に「今、この世界で、物語を語るこの意味」というテーマでお話していただきます。「文学」のありようが変わりつつある今、作家たちは創作することの「意味」や「必要性」をどのように考えているのでしょうか。

- ・温又柔 (1980-) 台湾で生まれ日本で育ったというみずからの出自をもとに狭間にある「わたし」のありようを描く。『台湾生まれ日本語育ち』、『来福の家』、『真ん中の子どもたち』、『空港時光』。
- ・福永信 (1972-) 現代日本文学の最先端で軽やかな実験を続ける遊戯的作家。第5回坪内逍遙大賞奨励賞受賞。『コップとコッパンとペン』、『————』、『星座から見た地球』。
- ・木村友祐 (1970-) 震災の被災者や動物たち、オリンピックに沸く中切り捨てられるホームレスの人々など、弱者への視点を持つ作家。青森の南部分での表現にも意欲的。『聖地 Cs』、『イサの氾濫』、『野良ビトたちの燃え上がる肖像』。

甲南大学岡本キャンパス



構内地図



